

事業名	県南養殖漁場底質環境調査
予算区分	県単
事業実施期間	(継続事業)
担当者	(環境増養殖担当) 嵐俊右・朝田健斗・廣澤晃
共同研究機関等	

<目的>

魚類養殖に伴う残餌や糞等の排出物(有機物負荷)は水中で分解し、一部は海水交換によって漁場外に流出するが、一部は沈降し、海底に堆積する。本調査は、魚類養殖漁場の底質を調べることによって、有機物負荷の程度を把握し、魚類養殖の効率的な経営に資することを目的とする。

<方法>

県南5ヶ所(図1-1~4)の湾内養殖漁場において、10月にエクマンバージ採泥器で採泥し、外観を観察した後、試泥を水産研究課に持ち帰り、表層泥の全硫化物、COD、及び強熱減量を分析した(表1)。

<結果及び考察>

全硫化物については、橘湾で平年よりも高めであったが、その他の地点では平年よりやや低めであった。

CODについては、那佐湾では平年より低めであったが、その他の地点では平年並み～高めであった。

強熱減量については、椿湾及び那佐湾においては概ね平年どおり、その他の地点では高めであった。

橘湾、椿湾、浅川湾の一部の調査地点においてCODが水産用水基準(20mg/g乾泥)をやや超過しているが、その他の項目は基準以下であり、漁場環境は概ね良好である。

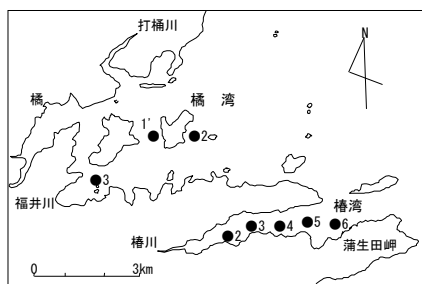


図1 - 1 橘・椿湾調査点

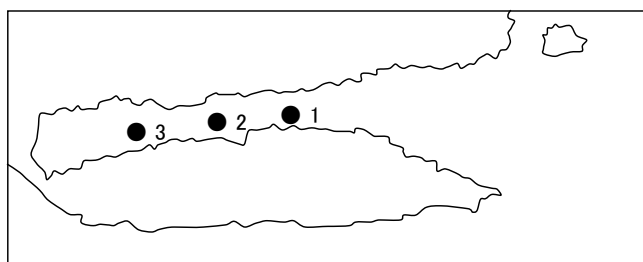


図1 - 3 那佐湾調査点



図1 - 2 浅川湾調査点



図1 - 4 水床湾調査点

表1 . 県南養殖漁場底質環境調査結果

調査地点	年月日	定点	調査時刻	水深 (m)	泥温 (℃)	乾泥率 (%)	硫化物 (mg/g乾泥)	COD (O ₂ mg/g乾泥)	強熱減量 (550℃・%)	底質の性状					
										外観	底泥層厚 (mm)	色		臭気	粘性
												浮泥	浮泥以外		
橘湾	令和3年10月12日	1'	9:05	11.6	24.4	46.0	0.0106	19.00	6.3	砂泥	3	茶	灰黒	不明	中
		2	9:22	17.5	24.3	36.2	0.6308	25.81	7.5	泥	4	茶	灰黒	腐敗臭	中
		3	10:57	9.4	24.8	43.5	0.0329	20.88	6.9	泥砂	4	茶	灰黒	不明	中
椿湾	令和3年10月12日	2	10:27	8.2	25.3	65.7	0.0138	10.95	4.5	砂	2	茶	灰黒	不明	小
		3	10:19	13.2	24.3	48.9	0.0157	18.23	6.2	砂	5	茶	灰黒	不明	小
		4	10:10	18.3	24.3	32.0	0.1878	33.72	10.0	泥	5	茶	灰黒	不明	中
		5	10:00	21.5	24.3	38.5	0.1081	26.62	8.5	砂泥	4	茶	灰黒	不明	中
		6	9:50	23.0	24.4	35.4	0.1514	27.02	8.2	砂泥	3	茶	灰黒	不明	中
		1	9:51	6.0	23.3	39.7	3.3610	59.42	13.1	泥	2	茶	灰黒	不明	中
浅川湾	令和3年10月21日	1'	9:42	7.6	21.9	51.0	0.0209	13.92	8.2	砂泥	5	茶	灰黒	不明	中
		2	9:23	8.0	21.9	63.2	0.0075	11.09	5.8	砂泥	3	淡茶	灰黒	不明	小
		3	9:32	6.2	21.7	60.0	0.0061	18.34	6.8	砂泥	5	淡茶	灰黒	不明	小
那佐湾	令和3年10月21日	1	10:35	7.1	21.0	69.3	0.0021	2.36	3.0	砂	1	茶	灰黒	不明	小
		2	10:44	4.3	20.7	68.8	0.0057	8.69	5.1	砂	3	茶	灰黒	不明	小
		3	10:56	2.5	20.3	70.4	0.0036	4.33	2.2	砂	1	淡茶	黒	不明	小
水床湾	令和3年10月21日	1	12:05	7.4	23.3	67.9	0.0079	4.11	3.2	砂	0.1	淡茶	灰黒	不明	小
		2	11:45	3.8	23.3	67.6	0.0003	2.24	3.5	砂	0.1	淡茶	淡褐	不明	小
		2'	11:55	3.5	23.0	68.4	0.0004	1.57	3.0	砂	0.1	淡褐	淡褐	不明	小

< 今後の課題 >

特になし。

< 次年度の計画 >

継続する。

< 結果の発表・活用状況等 >

特になし。